

パキスタンを先導する女性たちの声 サボール・アーメッド・カカールさん（パキスタン）

パキスタンでは、他の開発途上国と同様に、農業、家庭、スポーツ、ジャーナリズム、学術研究、地域活動など多方面において女性が直接・間接的に多大な貢献をしています。近年、女性労働者の割合が増加傾向にあるとはいえ、その数は依然として少ないのが現状です。さまざまな社会経済的な制約により、女性の労働市場への参加が妨げられています。育児や家事など、既婚女性には家庭で果たすべき責任がいくつもあるため、結婚後は家庭に入らざるを得ません。主婦として家事をこなすことが義務だとする考え方が女性を束縛しており、女性側もこれを受け入れています。

この国では、意思決定を下す権限は男性が握っているという認識が一般的です。社会のあらゆる分野における女性の地位向上に関しては、ある程度の進展が見られるもののいまだに十分とはいえ、特に社会、経済、政治、法律の面で女性は非常に軽視されています。パキスタンにおける女性の労働参加率は28%で、南アジア地域で最低の値であり、勤労所得は男性の26%です。パキスタンの女性の労働力参加に関してさまざまな調査が行われていますが、農村部の女性は農業、家畜の精肉加工、乳製品の加工、養鶏、手工芸などのさまざまな労働に幅広く従事していることが分かります。これらの生産活動に加え、彼女たちは家事もこなしているのです。

パキスタンの都市部においては、家庭の貧富と女性の労働力参加の関連性は認められません。これに対し農村部では、女性の経済活動参加率は主に、土地所有の有無によって判断されるその家庭の貧富に大きく左右されています。また、農村部では世帯収入が増加すると女性の経済活動参加率が下がる傾向があります。近年、パキスタンでは農業の機械化が進んだことで収入が上がったのですが、このことが農村部における女性の経済活動参加率の低下の一因となっています。農村部の女性は長い間、田畑の耕作などのさまざまな農作業に従事してきました。さらに、穀物の洗浄、乾燥、保管も女性に任されており、収穫後にもこれらの仕事をこなさなければなりません。この他にも、家畜の世話も概して女性の役割で、さまざまな作業を行う必要があります。

国による男女平等への対策を見ると、政府は2012年に国家女性地位委員会を復活させました。この委員会は2000年に当時の陸軍参謀総長パルヴェーズ・ムシャラフ氏によって設置され3年間続いたもので、その後再度、3年間再開されたという経緯があります。政府による法案が可決されて同委員会は常設となりました。その主な任務は、女性を保護し虐待から守り、女性保護法が確実に施行されるようにすることです。2012年2月、パキスタンの政党である「統一民族運動」が世界最大級となる女性の政治集会をカラチで開催し、約10万人の女性が参加しました。また、別の政党である「パキスタン正義運動（PTI）」は、女性を政治の主流に送り込むことに力を入れており、現在は地方選挙や国政選挙において多くの女性候補が立候補しています。

しかしながら、パキスタンでは、女性が教育を受け、仕事を得て、財産を所有する機会が男性と比較して非常に少ないという状況に変わりはありません。パキスタンにおける社会的・文化的背景には圧倒的な家父長制が存在します。パキスタンでは全世帯の約 90%の世帯主が男性であり、女性が世帯主である家庭のほとんどは貧困層となっています。

パキスタンの女性は、法的には財産を所有し、家族の財産を相続する権利があるにもかかわらず、実際に財産を所有して管理している女性はほとんどいません。また、この国には民法とシャリーア法（イスラム法）とが二重に存在しています。1958年に公布され、1973年に新憲法となったパキスタン・イスラム共和国憲法は、あらゆるレベルにおける性差別を法的に禁じており、この憲法のもとに女性には法的、宗教的に平等な権利が保障されています。それにもかかわらず、女性は社会的、経済的に大きな困難に直面しており、司法制度においても、下級裁判所での審理が遅く公正な裁判を受けられないという苦境に立たされています。

一方で改善された面もあります。ユニセフ（UNICEF）による最新の統計によると、パキスタンでは15歳から24歳までの女性の識字率が以前はわずか39.6%であったのに対し、今は61.5%にまで大幅に改善されました。これはパキスタンの人口の70%が30歳以下であることを考えると、非常に重要な変化だといえます。

この国はノーベル平和賞を受賞したマララ・ユスフザイさん、オスカー賞を受賞した映画監督のシャーミン・オベイド＝チノイさん、パキスタン人女性として初のエベレスト山登頂を果たしたサミナ・ベグさんなどを輩出しています。パキスタンは今、発展と平和に向けて立ち上がり、歩みを進めています。今後パキスタンの女性が、憲法が保障する男女平等を人生のあらゆる面で享受し、この国を先導する存在として声を上げていくことを願ってやみません。



ノーベル平和賞を受賞したマララ・ユスフザイさん



パキスタン人女性初のエベレスト登頂者サミナ・ベグさん